

# YAMAHA

# MDF1

MIDI DATA FILER

取扱説明書

このたびは、ヤマハMIDIデータファイラーMDF1をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。

MDF1は、わずか2.8インチという手軽なクイックディスクを使用することにより、DXシリーズ シンセサイザーの音色データや、QXシリーズ シーケンサーのシーケンスデータ等を保存できる、便利なMIDIデータファイラーです。

MDF1の優れた性能をフルに発揮させると共に、未長くご愛用いただくため、ご使用前にこの説明書をよくお読みくださいますようお願いいたします。

## 目次

特長	1
ご使用上の注意	2
各部の名称と機能	3
クイックディスクについて	5
機能一覧	6
使用前の準備	7
機能説明	8
ディスクの初期化(JOB 6:フォーマット)	8
データの保存(セーブモード)	8
全ファイル数の確認(ファイルモード)	10
ファイルナンバーの選択(ファイルモード)	10
データの送信(ロードモード)	10
ディスク残量の表示(JOB 1:フリーディスク)	11
ファイルの複写(JOB 4:コピー)	11
ディスクの複写(JOB 5:バックアップ)	12
最終ファイルの消去(JOB 3:デリート)	13
複数データの送出時間間隔の設定 (JOB 2:インターバルタイム)	13
資料	
仕様	14
MIDIデータフォーマット	14
表示文字一覧表	15
エラーメッセージ一覧表	16
MIDIインプリメンテーション チャート	17
サービスについて	18

## 特長

- ★本機は、外部から受信したシステム エクスクルーシブ メッセージを、クイックディスクに保存することができます。システム エクスクルーシブ メッセージには次のようなものがあります。
  - DXシリーズ シンセサイザーやTXシリーズ トーンジェネレーターなどの音色データやパフォーマンスデータ
  - QXシリーズ シーケンサーのシーケンスデータ
  - RXシリーズ リズムマシンのパターンデータやソングデータ
- ★1枚のクイックディスクの片面に最大で59.9kバイト、ファイル数にして最大19ファイルものデータを記録できます。
- ★データの消去やディスクのメモリー残量の確認、他のディスクへのデータコピーなど、編集機能も充実しています。
- ★テープ式のデータレコーダーにくらべ、データをスピーディに処理でき、操作も簡単かつ確実に行なえます。

# ご使用上の注意

## ●設置場所について

次のような場所でご使用になりますと、故障などの原因になりますのでご注意ください。

- 窓際など直射日光の当たる場所
- 暖房器具のそばなど極端に暑い場所
- 湿度の極端に高い場所
- 極端に乾燥した場所
- ホコリの多い場所
- 振動の多い場所

## ●電源について

- 電源スイッチは、送信機器の電源を投入した後、ONにしてください。
- 本機は、付属の専用ACアダプターPA-4を使用します。市販の電圧や極性の異なるACアダプターをご使用になりますと、故障の原因となることがありますので、PA-4以外のACアダプターはご使用にならないでください。
- 付属のPA-4は日本国内仕様です。必ず、AC100V(50Hzまたは60Hz)の電源コンセントに接続してください。AC100V以外の電源では絶対にご使用にならないでください。
- 落雷などの恐れがある時は、電源コンセントからACアダプターをはずしておくことをおすすめします。
- 長時間ご使用にならない時は、ACアダプターをコンセントからはずしてください。

## ●クイックディスクについて

- クイックディスクは、ていねいに取り扱いください。(詳しくは5ページをご覧ください)

## ●異物が入ったら

- 異物が入った場合は、電源コンセントからACアダプターをはずし、お買い上げ店もしくは最寄りの弊社電音サービスセンターにご相談ください。

## ●磁気ヘッド保護シートについて

- ディスク挿入部に挿入されていた磁気ヘッド保護シートは、使用時に取り除き、輸送時に挿入してください。

## ●接続について

- トラブル防止のため、接続作業は本機および接続機器の電源を切った状態で行なってください。

## ●MIDIケーブルについて

- ケーブルはMIDI規格のものをご使用ください。
- ケーブルの長さは15mが限度とされています。これ以上長いケーブルをご使用になりますと、波形の劣化等によりトラブルの原因となりますので、ご注意ください。

## ●取り扱い・移動について

- キー、スイッチ、端子などに無理な力を加えることはさけてください。
- コード部分の断線やショートを防ぐため、コード類をはずす時は、必ずプラグ部分を持って引き抜いてください。
- 本機を移動する前に、コード類の断線やショートを防ぐため、ACアダプターや接続コードをすべて取りはずしてください。

## ●外装のお手入れについて

- 汚れなどのお手入れの際は、柔らかい布で乾拭きしてください。
- ベンジンやシンナーなどの揮発油で外装を拭いたり、近くでエアゾールスプレーを散布したりすることは避けてください。

## ●他の電気機器への影響について

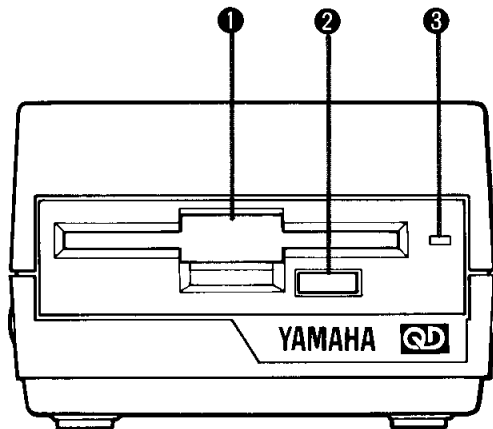
- 本機はデジタル回路を多用しているため、ごく近くでラジオやテレビなどを同時にご使用になりますと、ラジオやテレビ側で雑音などが生じることがあります。十分に離してご使用ください。

## ●保証書の手続きと取扱説明書の保管について

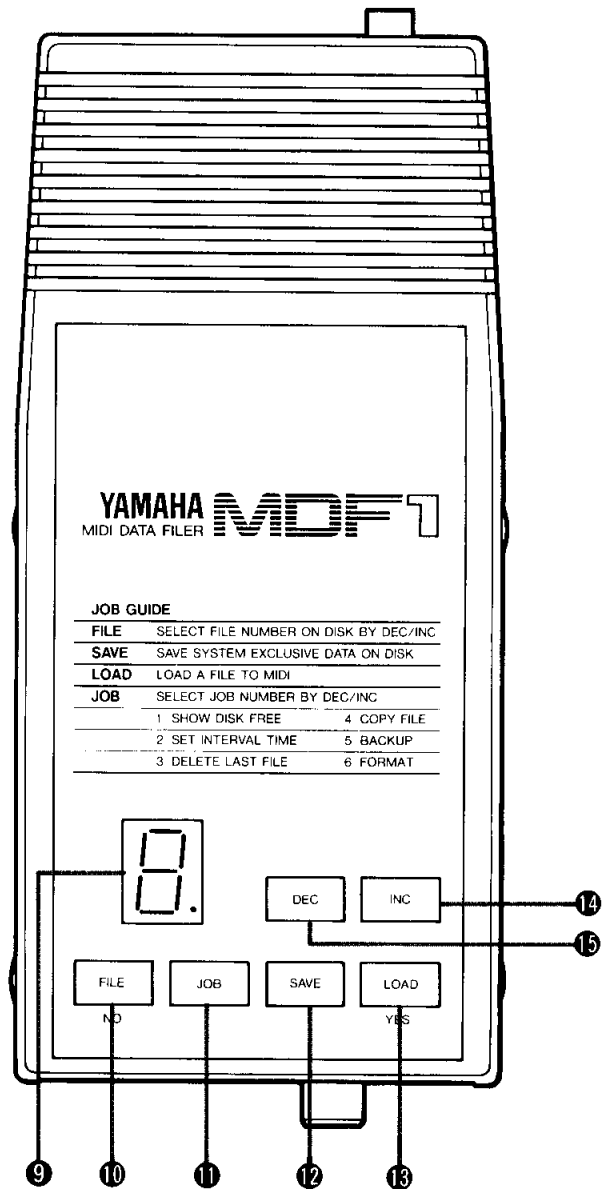
- お買い求めの際、購入店で必ず保証書の手続きをとってください。保証書に販売店印がありませんと、保証期間中でもサービスが有償となることがあります。
- この取扱説明書は、保証書と共に大切に保管してください。

# 各部の名称と機能

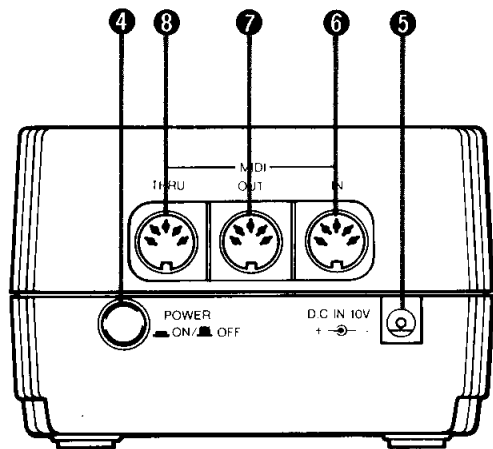
## ●フロントパネル



## ●コントロールパネル



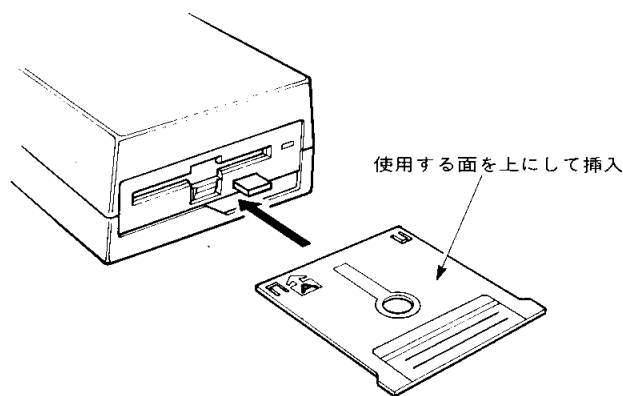
## ●リアパネル



## ① ディスク挿入口

ディスクを挿入する部分です。使用する側の面を上にして、静かに挿入してください。

※④のPOWERスイッチをONにした状態で、付属の磁気ヘッド保護シートを挿入しないでください。本機内部のヘッドを傷めます。



## ② イジェクトボタン

挿入したディスクを取り出す時には、このボタンを押します。ただし、③のディスク駆動インジケータが点灯している時は、絶対にディスクを取り出さないでください。本機内部のヘッドやディスクを傷めます。

## ③ ディスク駆動インジケータ

ディスク駆動部分が作動している時に点灯します。

## ④ POWERスイッチ

電源スイッチです。ONにすると電源が入り、⑨のLEDディスプレイに、メッセージが表示されます。ディスクの挿入や取り出しは、電源ONの状態で行なってください。

## ⑤ DC IN 10V端子

付属の専用アダプターPA-4を接続するための端子です。

## ⑥ MIDI IN端子

音色データやシーケンスデータ等、ディスクに記録したいデータを入力するための端子で、DXシリーズ シンセサイザーやQXシリーズ シーケンサーなどを接続できます。

## ⑦ MIDI OUT端子

ディスクに記録した音色データやシーケンスデータ等を、DXシリーズ シンセサイザーやQXシリーズ シーケンサーなどに送り返すための端子です。

## ⑧ MIDI THRU端子

⑥のMIDI IN端子に送られてきた信号を、そのままの状態ですり出すための端子で、もう一台のMIDI機器に同じ信号を送ることができます。接続する機器のMIDI IN端子と接続してください。

## ⑨ LEDディスプレイ

7セグメントのディスプレイで、数字やアルファベットなどで本機のその時の状態を表します。本機の操作は、このディスプレイを見ながら行ないます。

## ⑩ FILE(NO)キー

ファイルモードにするためのキーです。

本機では1枚のディスクの片面に、最大で19ファイルのデータを記録できますが、それらのデータには記録した順にファイルナンバーが自動的に付けられます。ファイルモードとは、データを外部機器に送り出す場合や、編集に関する操作をする場合に、ファイルナンバーを指定するためのモードです。ファイルナンバーを指定する時には、このキーを押してファイルモードにしてください。現在選択されているファイルナンバーが表示され、⑭のINCキーおよび⑮のDECキーでファイルナンバーを指定できるようになります。なおこのキーは、JOBの実行に際し、実行しない(NO)という意志表示をする場合にも用います。

## ⑪ JOBキー

ジョブモードにするためのキーです。ジョブモードには、おもに編集に関する6つのJOB(仕事)があります。このキーを押すとジョブモードになり、⑭のINCキーおよび⑮のDECキーでJOBを選択できるようになります。

## ⑫ SAVEキー

セーブモードにするためのキーです。

リアパネルのMIDI IN端子⑥に接続した機器からのデータを保存する場合には、このキーを押してください。セーブモードになり、データを記録可能となります。

## ⑬ LOAD(YES)キー

ロードモードにするためのキーです。

ディスクに記録したデータを外部機器に送り返す場合には、このキーを押してください。ロードモードになり、送出可能となります。

なお、このキーはJOBを実行する時にも使用します。

## ⑭ INCキー

ファイルナンバー等を指定するためのキーで、このキーを押すたびに値が1つずつ大きくなります。(つまり、次のファイルになります。)

最大値の次は最小値に戻ります。

## ⑮ DECキー

ファイルナンバー等を指定するためのキーで、このキーを押すたびに値が1つずつ小さくなります。(つまり、前のファイルになります。)

最小値の次は最大値に戻ります。

# クイックディスクについて

クイックディスクは、磁性体を表面に塗布したフィルム状の記録媒体です。磁性体面はデリケートですので、取り扱いには充分注意してください。

## ●規格について

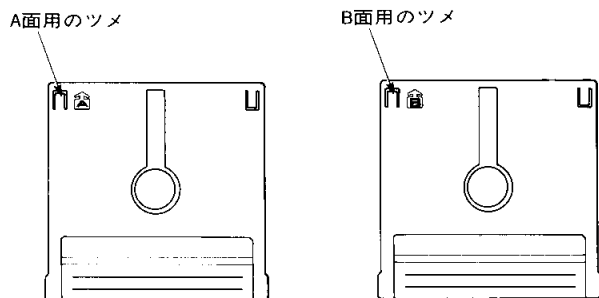
- 新しいディスクを購入する際には、2.8インチ クイックディスク(推奨商品：ヤマハ QD2)とご指定ください。
- クイックディスクにはA面とB面があり、両面に記録可能です。ディスクを挿入する際、使用する面の表示を上にしてください。(前ページ参照)
- 本機では、片面に最大59.9kバイト、19ファイルまで記録できます。

## ●取り扱いについて

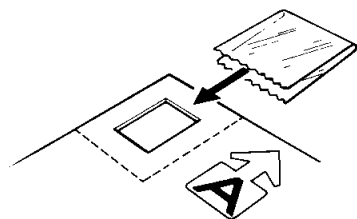
- 磁性体面(ディスク内部)に触れたり、煙やスプレーを吹きかけないでください。汚れが付着したり、傷がつくと使用不可能になることがあります。ホコリにもご注意ください。
- テレビやラジオ、スピーカーなど、磁気を帯びたものに近づけないでください。記録した内容を破壊するおそれがあります。
- ディスクがたわむような状態で保管しないでください。収納箱等に入れ、直射日光や高温の場所を避けて保管してください。

## ●記録内容の保護

ディスクの消去防止用のツメを折ると、記録ができなくなり、大切なデータを誤って消してしまうことがなくなります。ツメは、A面用とB面用にそれぞれありますので、保護したい側のツメを折ってください。



ツメを折った面に再び記録したい場合には、ツメの代わりにセロテープを貼ってください。



## ●初期化

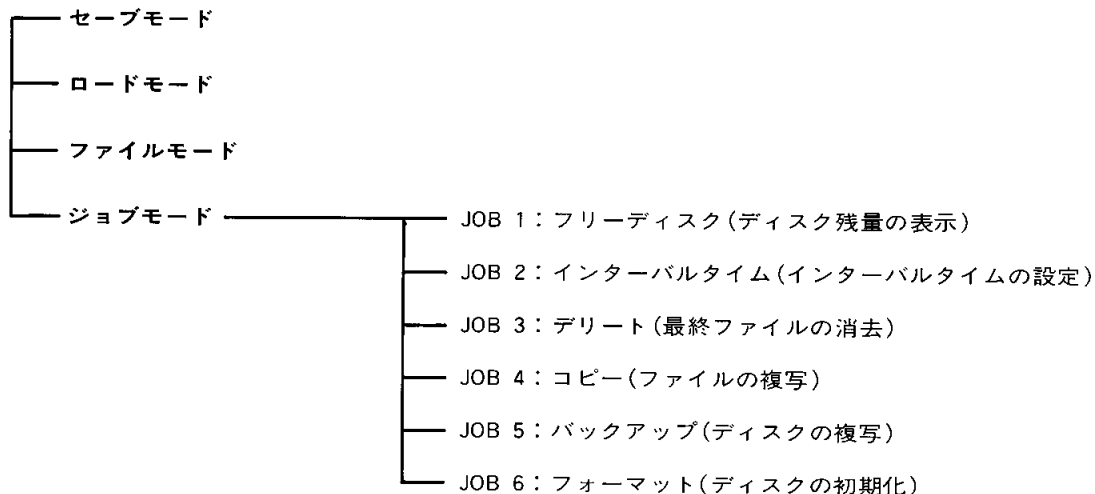
付属のディスクや購入したディスクを本機で使用するには、まず初期化をしなければなりません。8ページの“ディスクの初期化”の項をご覧ください。

※すでに記録済みのディスクを初期化すると、内容が全て消去されますのでご注意ください。

# 機能一覧

本機の機能は、モードおよびJOBを指定することで選択できます。モードおよびJOBの構成、概略は次のとおりです。

## モードおよびJOBの構成



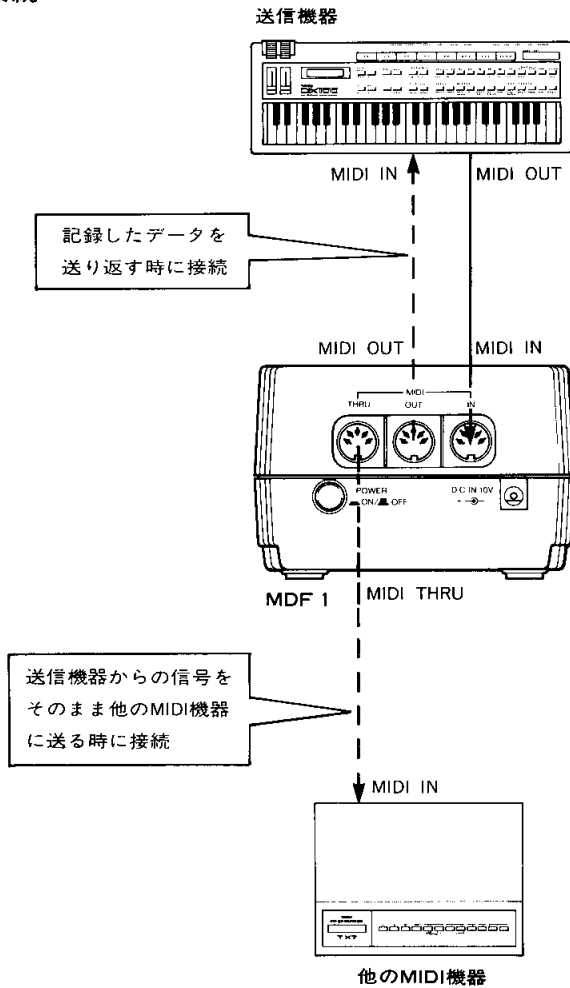
## モードおよびJOBの概略

名 称	概 要	説明ページ
セーブモード	外部機器のデータをディスクに記録(保存)することができる。	P 8
ロードモード	ディスクに記録したデータを、ファイルごとに外部機器に送り返すことができる。	P10
ファイルモード	記録するごとに付けられたファイルNo.(1~19)を選択したり、ファイルの総数を確認できる。	P10
ジョブモード	JOB1~6を選択することができる。	
JOB 1:フリーディスク	ディスクのメモリー残量(0~9の10段階)を確認できる。	P11
JOB 2:インターバルタイム	1ファイル内に複数のデータがある場合、ロード(データの送信)の際のデータ間の時間間隔を0~1.9秒の範囲で設定できる。	P13
JOB 3:デリート	最終ファイルナンバーのデータを消去することができる。	P13
JOB 4:コピー	希望するファイルナンバーのデータを、他のディスクにコピー(複写)することができる。	P11
JOB 5:バックアップ	ディスク内の全てのデータ(全ファイル)を、他のディスクにコピー(複写)することができる。	P12
JOB 6:フォーマット	ディスクを初期化したり、ディスク内の全てのデータ(全ファイル)を消去することができる。	P 8

# 使用前の準備

本機を使用する場合には、次の手順で準備をしてください。

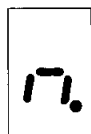
## 1) 接続



## 2) 電源をON

送信機器の電源をONにした後、本機の電源をONにします。さらに、MIDI THRU 端子に他の機器を接続した場合には、その機器をONにします。(つまり、送信側から順にONにします。)

本機の電源をONにした時、LEDディスプレイに次のように表示されます。



ノー ディスク  
no disk

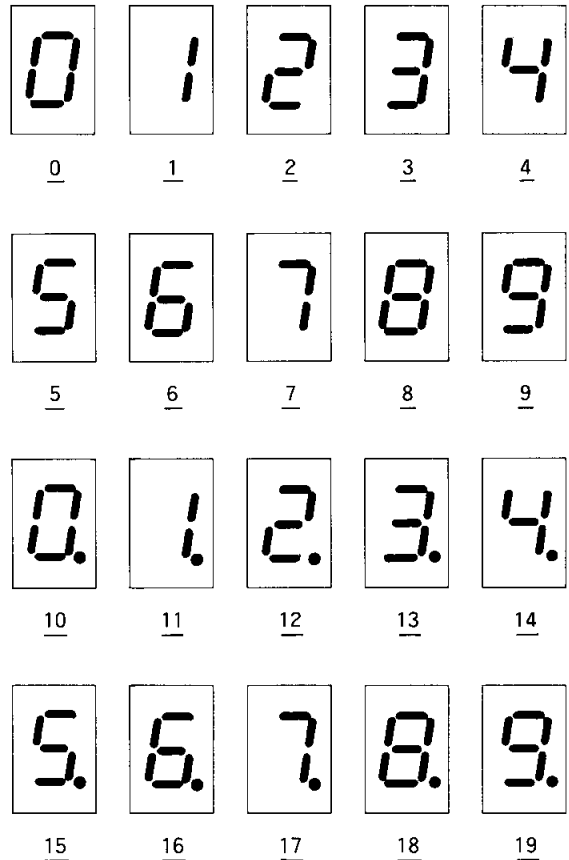
これは、まだディスクが挿入されていないことを示すメッセージです。

## 3) ディスクの挿入

ディスクを挿入します。使用する面を上にして、静かに挿入してください。

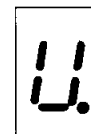
ディスクを挿入すると、自動的にファイルモードになり、次のように表示されます。

いずれかが表示されます。



これは、挿入したディスクのその面に、データがすでに何ファイル入っているか(何回記録の操作を行なったか)を示すメッセージです。

ただし、まだディスクを初期化していない場合には、次のように、まだ初期化されていないことを示すメッセージが表示されます。



アンフォーマット  
Unformat

初期化をする場合には、次ページの“ディスクの初期化”の項をご覧ください。



# 機能説明

ここでは、各モードおよびJOBの機能説明と、操作の方法を紹介します。なお、操作の方法につきましては、前項の“使用前の準備”に示した操作は終了したものとして説明します。また、操作中にエラーとみられるメッセージが表示された場合には、16ページの“エラーメッセージ一覧表”をご覧になり、各処置を施してください。

## ディスクの初期化(JOB 6:フォーマット)

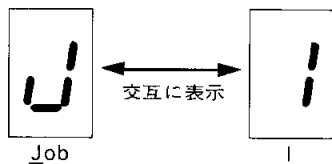
付属のディスクや購入したディスクを初めて使う場合には、まずディスクを初期化しなければなりません。初期化は、JOB 6のフォーマットの機能を使います。

※すでに記録済みのディスクを初期化すると、内容が全て消去されますのでご注意ください。

### 初期化の方法

1) JOBキーを押してジョブモードにします。

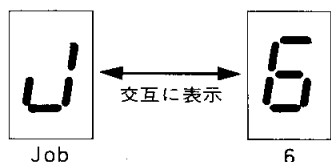
JOBキーを押すと…



JOB1モードになります。

2) JOB 6の状態にします。INCキーまたはDECキーを押して“Job”と“6”の交互表示にしてください。

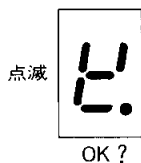
INCキーまたはDECキーを押して…



6の表示にします。

3) YESキーを押して次の表示にします。

YESキーを押して…



の点滅表示にします。

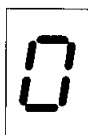
4) もう一度YESキーを押して初期化を実行します。

YESキーを押して実行すると…



の表示になり…

しばらくして初期化が完了すると…



の表示になります。

もしYESキーを押さずにNOキーを押した場合には、初期化は実行されずに、ファイルモードになります。

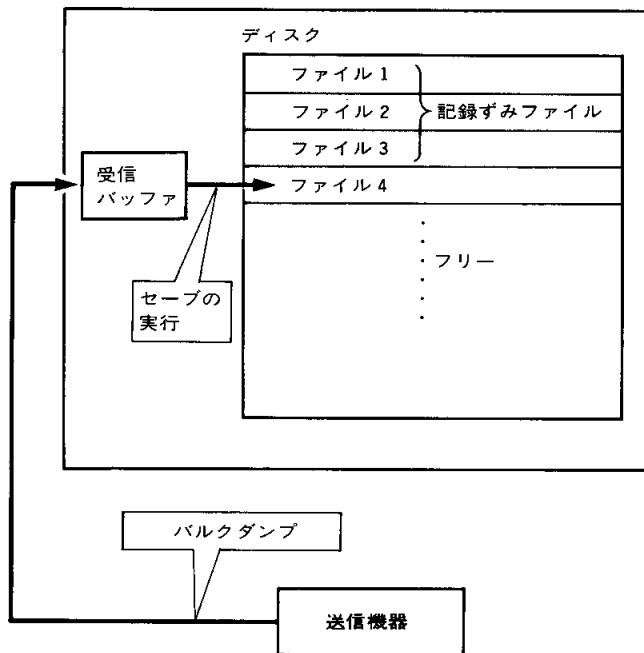
## データの保存(セーブモード)

外部機器の音色データやシーケンスデータ等を本機のディスクに保存(記録)する場合には、セーブモードの機能を使います。

☆外部機器からのデータの送中は、外部機器のバルクダンプという機能を使って行ないます。外部機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

☆受信したデータは、いったん受信バッファと呼ばれるメモリーにたくわえられます。次にセーブを実行すると、バッファ中のデータがディスクに書き込まれます。

MDF 1



☆受信バッファのメモリー容量は約60kバイトで、複数のシステム エクスクルーシブ データを連続して取り込むことができますが、データが全部で60kバイトに達した場合は、エラーメッセージが出て、バッファ内の内容が全てクリアされてしまいますので、ご注意ください。(16ページの“エラーメッセージ一覧表”参照)

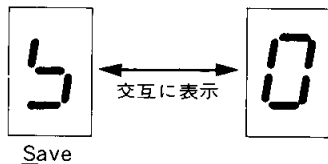
☆ディスクのメモリー容量は片面につき最大59.9kバイト(フォーマット時)で、19ファイルまで記録できます。1ファイルとは、1回のセーブ操作で得たデータのことで、ただし、19ファイルにならなくても、メモリーの限界である59.9kバイトに達した場合には、エラーメッセージが出てそれ以上は記録できません。(16ページの“エラーメッセージ一覧表”参照)

☆記録した順に、自動的にファイルナンバーが付けられます。記録の際、ファイルナンバーを指定することはできません。

## ◆セーブの方法

- 1) FILEキーを押してファイルモードにします。
- 2) SAVEキーを押して、データ待ちの表示にします。

SAVEキーを押して…



データ待ちの状態にします。

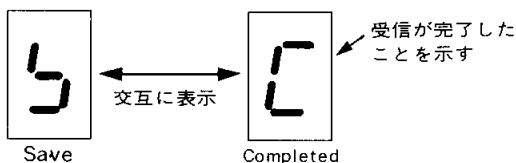
- 3) 外部機器側でバルクダンプの操作をして、データを出力させます。

バルクダンプを実行すると、受信中であることを示す…



の表示になります。そして…

受信を完了すると…



SaveとCompletedの交互表示になり、データがバッファに取り込まれたことを示します。

※データが細かく分割され連続して送られてくる場合は、受信中はrとSの交互ブリンク表示となります。

メモリー容量に余裕があれば、引き続き別のデータを受信することもできます。

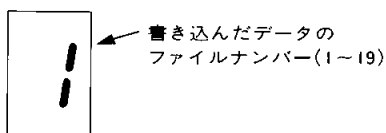
- 4) SAVEキーを押して、バッファに取り込んだデータをディスクに書き込みます。

SAVEキーを押すと、書き込み中であることを示す…



の表示になります。そして…

書き込みが完了すると…



のように、今書き込んだデータのファイルナンバーが表示されます。

☆ヤマハXシリーズ、およびYRMシリーズなどのバルクデータには、おもに次のようなものがあります。(これ以外の機種のバルクデータ、およびバルクダンプの方法につきましては、それぞれの取扱説明書を参照してください。)また、それぞれのバルクダンプにおける使用バイト数(本機のメモリー消費量)を同時に記載しておきますので、参考にしてください。なお、RXおよびQXについてはデータ量が最も多かった場合のバイト数です。

- DX7/7II : 1音色バルクデータ……………163バイト  
32音色バルクデータ……………4104バイト  
1パフォーマンスバルクデータ(DX7II)  
……………79バイト  
32パフォーマンスバルクデータ(DX7II)  
……………1660バイト
- DX21/27/  
27S/100/ : 1音色バルクデータ……………101バイト  
TX81Z : 32音色バルクデータ……………4104バイト  
1パフォーマンスバルクデータ(TX81Z)  
……………128バイト  
32パフォーマンスバルクデータ(TX81Z)  
……………2450バイト
- TX7/TF1 : 1音色バルクデータ……………163バイト  
32音色バルクデータ……………4104バイト  
1パフォーマンスバルクデータ…102バイト  
64パフォーマンスバルクデータ…4104バイト
- RX5 : パターン/ソングバルクデータ…約33kバイト
- RX11 : パターン/ソングバルクデータ…約8kバイト
- RX21/21L : パターン/ソングバルクデータ…約4kバイト
- QX7/21 : シーケンスバルクデータ……………約48kバイト
- QX5 : シーケンスバルクデータ……………約128kバイト
- FB-01 : 1音色バルクデータ……………139バイト  
48音色バルクデータ……………約6kバイト  
1コンフィギュレーション  
バルクデータ……………171バイト  
16コンフィギュレーション  
バルクデータ……………約2.6kバイト
- YRM-32(RXエディタ)  
パターン/ソングバルクデータ……………約8kバイト
- YRM-34(DX7音色プログラムⅡ)  
32音色バルクデータ……………約8kバイト
- YRM-35(DX21音色プログラム)  
32音色バルクデータ……………約4kバイト
- YRM-55(FMミュージックコンポーザⅡ)  
SFG 48音色バルクデータ……………約6kバイト
- YRM-56(FB-01音色プログラム)  
48音色バルクデータ……………約6kバイト  
16コンフィギュレーションバルクデータ…約2.6kバイト

※QX5については、最大の場合約128kバイトものメモリー量を必要とします。このために1度にディスクに入りきらなかった場合は、QX5側で数トラックにデータを分割すると共に、ディスクも数面に分け、再度操作を行なってください。

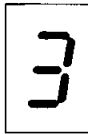
## 全ファイル数の確認(ファイルモード)

ある程度データを記録すると、ディスクに何ファイル記録したか、確認したくなることがあります。その場合には、ファイルモードにするだけでファイル数を確認できます。

### ◆ファイル数の確認方法

FILEキーを押してファイル数を表示させます。

FILEキーを押してファイルモードにすると…



← ディスク内のファイル数(0~19)

のように、ディスク内の合計ファイル数が表示されます。

☆セーブ、ロードおよび各JOBの終了時、あるいは中断時は自動的にファイルモードに戻りますが、ロード(本ページ参照)の終了時およびコピー(次ページ参照)の中断時に表示されるファイルナンバーは、ロードやコピーの対象として選択していたファイルナンバーであって、現在挿入しているディスクの全ファイル数とは限りません。また、ファイルモードで電源ONのままディスクを入れ替えても、ファイル数表示は元のディスクのままです。これらの場合は、もう1度FILEキーを押すことにより、挿入しているディスクの全ファイル数を表示させることができます。

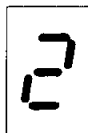
## ファイルナンバーの選択(ファイルモード)

ディスクに一度記録したデータを外部機器に送り返す場合や、希望するファイルのデータを他のディスクにコピーする場合には、あらかじめここに示すファイルモードの機能を使って、ファイルナンバーの選択をする必要があります。

### ◆ファイルナンバーの選択方法

- 1) FILEキーを押してファイルモードにします。
- 2) INCキーまたはDECキーを押して、希望するファイルナンバーを表示させます。これで完了です。

INCまたはDECキーを押して指定する。



← 希望するファイルナンバー

## データの送信(ロードモード)

ディスクに一度記録したデータを外部機器に送信する場合には、ロードモードの機能を使います。

☆ロードの操作をする前に、外部機器側がデータを受けられるよう、外部機器を設定しておく必要があります。各取扱説明書をご覧になり、あらかじめ設定しておいてください。

☆1ファイル中に、データサイズの大きい複数のデータが連続してある場合、ロードを実行すると、受信側でエラーを起こす恐れがあります。その場合には、あらかじめデータとデータの間の送出時間間隔を設定しておくといでしょう。(13ページの“複数データの送出時間間隔の設定”参照)

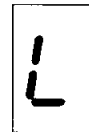
### ◆ロードの方法

- 1) FILEキーを押してファイルモードにします。
- 2) INCキーおよびDECキーを押して、送信したいファイルのナンバーを表示させます。
- 3) LOADキーを押してロードを実行します。

LOADキーを押すと…



のようになり、そして…



Load

の表示に変わり、送信が開始されます。そして…

送信が終了すると…



← 送信したデータのファイルナンバー

送信したデータのファイルナンバーが表示されます。

なお、全ファイル数を確認したい場合は、さらにFILEキーを押します。(本ページの“全ファイル数の確認”参照)

## ディスク残量の表示(JOB 1:フリーディスク)

ある程度データを記録すると、ディスクにあとどのくらい記録できるのか、確認したくなることがあります。その場合には、JOB 1:フリーディスクの機能を使うことにより、これが可能です。

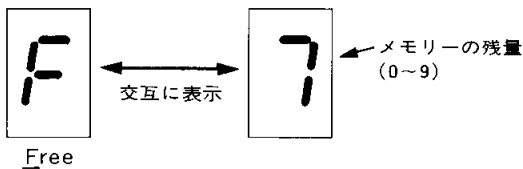
### ◆残量の確認方法

- 1) JOBキーを押してジョブモードにします。ジョブモードにすると、INCキーまたはDECキーを押さなくても、“JOB 1:フリーディスク”の状態になります。
- 2) YESキーを押してメモリーの残量を表示させます。

YESキーを押すと…



のように表示され、そして…



メモリーの残量が0~9の10段階で表示されます。

※ 0~9の表示は、およそ次のように残量と対応します。

表示	残	量
9	53.9 k	59.9 k バイト
8	47.9 k	53.9 k バイト
7	41.9 k	47.9 k バイト
6	35.9 k	41.9 k バイト
5	30 k	35.9 k バイト
4	24 k	30 k バイト
3	18 k	24 k バイト
2	12 k	18 k バイト
1	6 k	12 k バイト
0	0	6 k バイト

## ファイルの複写(JOB 4:コピー)

記録したデータを、ファイル単位で他のディスクにも複写したい場合には、ここに示すJOB 4:コピーの機能を使います。なお、同一ディスクの残り部分に複写することもできます。

☆コピー先のディスクには、コピー分のメモリー残量が必要です。また、ディスクが初期化されていなかったり、消去防止用のツメが折られていると、コピーできません。

☆コピー先のディスクにすでにデータが入っていた場合、コピーしたデータは、すでに入っていたデータの次のファイルナンバーになります。

☆全てのファイルのデータをコピーしたい場合には、次ページの“ディスクの複写”の項をご覧ください。

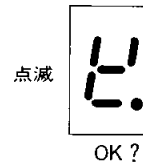
### ◆コピーの方法

- 1) FILEキーを押してファイルモードにします。
- 2) INCキーまたはDECキーを押して、コピーしたいファイルのファイルナンバーを表示させます。
- 3) JOBキーを押してジョブモードにします。
- 4) JOB 4の状態にします。INCキーまたはDECキーを押して“J**4**”と“**4**”の交互表示にしてください。
- 5) YESキーを押して次の表示にします。

YESキーを押すと…



の表示になり、そして…



OK?

の点減表示に変わります。

6) コピー元のディスクを取り出し、コピー先のディスクを挿入します。同一ディスク上でコピーする場合は、ディスクはそのまま次に進みます。

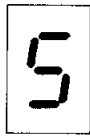
7) YESキーを押してコピーを実行します。

YESキーを押すと…



の表示になり、そして…

コピーが完了すると…



コピーしたデータの  
新しいファイルナンバー

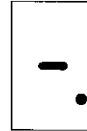
のように、今コピーしたデータの  
ファイルナンバーが表示されます。

もし、YESキーを押さずにNOキーを押した場合には、  
コピーは実行されずにファイルモードになります。この  
時表示されるファイルナンバーは、2) で選択したファイ  
ルナンバーですので、全ファイル数を確認したい場合は、  
さらにFILEキーを押してください。(10ページの“全フ  
ァイル数の確認”参照)

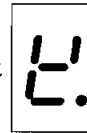
### ◆バックアップの方法

- 1) JOBキーを押してジョブモードにします。
- 2) JOB 5の状態にします。INCキーまたはDECキーを押し  
て“Job”と“5”の交互表示にしてください。
- 3) YESキーを押して次の表示にします。

YESキーを押すと…



の表示になり、そして…



点減

OK?

の点減表示に変わります。

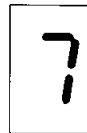
- 4) バックアップ元のディスクを取り出し、バックアップ先  
のディスクを挿入します。
- 5) YESキーを押してバックアップを実行します。

YESキーを押すと…



の表示になり、そして…

バックアップが完了すると…



バックアップしたデータの  
新しい最終ファイ  
ルナンバー

のように、今バックアップしたデータの  
最終ファイルナンバーが表示されます。

もし、YESキーを押さずにNOキーを押した場合は、バ  
ックアップは実行されずにファイルモードになります。

### ディスクの複写(JOB 5:バックアップ)

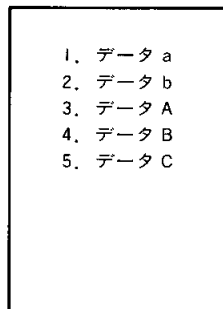
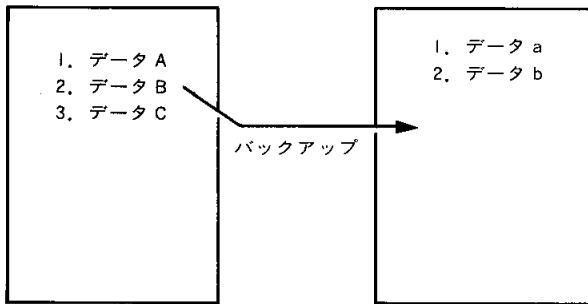
ディスク内の全てのデータ(全ファイル)を、他のディスクに  
複写したい場合には、ここに示すJOB 5:バックアップの機能  
を使います。

☆バックアップ先のディスクには、バックアップ分のメモリ  
ー残量が必要です。また、ディスクが初期化されていなか  
ったり、消去防止用のツメが折られていると、バックアッ  
プできません。

☆バックアップ先のディスクにすでにデータが入っていた場  
合、バックアップしたデータは、すでに入っていたデータ  
に続くファイルナンバーになります。

バックアップ元のディスク

バックアップ先のディスク



☆1つのファイルのデータのみコピーしたい場合には、前ペ  
ージの“ファイルの複写”の項をご覧ください。

## 最終ファイルの消去(JOB 3:デリート)

記録したデータの最終ファイルを消去したい場合には、ここに示すJOB 3:デリートの機能を使います。

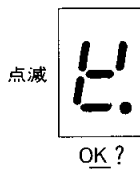
☆デリートできるのは、最終ファイルのみです。最終ナンバーのファイル以外はデリートできません。ただし、JOB 4:コピーの機能を使い、必要なファイルのみもう一枚のディスクまたはディスクの逆の面にコピーしていけば、ファイルを整理でき、結果的に、必要なくなったファイルを削除できます。

☆ディスク内の全てのデータ(全ファイル)を消去したい場合には、ディスクを初期化してください。(8ページ参照)

### ◆デリートの方法

- 1)JOBキーを押してジョブモードにします。
- 2)JOB 3の状態にします。INCキーまたはDECキーを押して`J**3**`と`**3**`の交互表示にしてください。
- 3)YESキーを押して次の表示にします。

YESキーを押すと…



の点減表示になります。

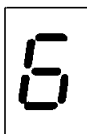
- 4)もう一度YESキーを押してデリートを実行します。

YESキーを押して実行すると…



の表示になり…

しばらくしてデリートが完了すると…



← デリートしたファイルの  
1つ前のファイルナンバー

のように、今デリートしたファイルの1つ前のファイルナンバーが表示されます。

もし、YESキーを押さずにNOキーを押した場合には、デリートは実行されずに、ファイルモードになります。

## 複数データの送出時間間隔の設定(JOB 2:インターバルタイム)

1つのファイル中に、データサイズの大きい複数のデータが連続してある場合、ロードを実行すると、受信側で処理ができずエラーを起こす恐れがあります。その場合には、ここに示すJOB 2:インターバルタイムで、データ間の送出時間間隔をあらかじめ設定しておくといよいでしょう。

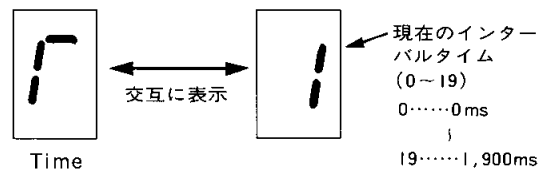
☆インターバルタイムは、0~1,900ms(1.9秒)の範囲内で、100msステップで設定できます。

☆電源ON時の初期値は、100msに設定されています。この状態でロードがうまくできないようでしたら、200ms, 300ms……と徐々に間隔を延ばして試してみてください。

### ◆インターバルタイムの設定方法

- 1)JOBキーを押してジョブモードにします。
- 2)JOB 2の状態にします。INCキーまたはDECキーを押して`J**2**`と`**2**`の交互表示にしてください。
- 3)YESキーを押してインターバルタイムの表示にします。

YESキーを押すと…



時間を表す`T`の表示と、インターバルタイムを表す表示の交互表示になります。

- 4)INCキーまたはDECキーを押して、インターバルタイムを設定します。

# 資料

## 仕様

### メモリー容量

アンフォーマット時……………A, B面各64kバイト  
 フォーマット時……………A, B面各59.9kバイト

記録媒体……………2.8インチ クイックディスク

ファンクション……………イジェクトボタン, POWERスイッチ,  
 FILE(NO)キー, JOBキー, SAVEキー,  
 LOAD(YES)キー, INCキー, DECキー,

ディスプレイ……………7セグメントLED

接続端子……………MIDI IN, MIDI OUT, MIDI THRU, DC IN 10V

電源……………ACアダプター・PA-4を使用

寸法(W×H×D)……………114mm×75mm×263.3mm

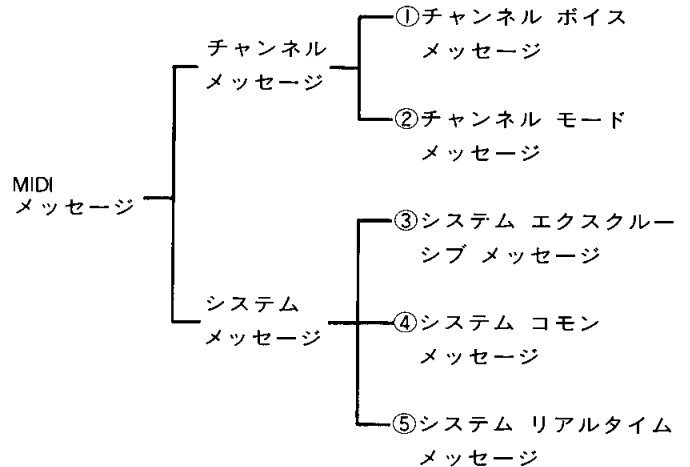
重量……………1.6kg

付属品……………専用ACアダプター・PA-4, MIDIケーブル,  
 クイックディスク(ブランク)

・仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

## MIDIデータフォーマット

MIDIメッセージを大まかに分類すると下図のようになりますが、本機で受信および送信できるのは、③のシステム エクスクルーシブ メッセージのみです。



### 1. 受信データ

#### システム エクスクルーシブ メッセージ

ステータス                    1 1 1 1 0 0 0 0 (F0H)  
 ID No.                        0 1 1 1 1 1 1 1 (YAMAHA:43H)

(途中のバイト数は  
 メーカーで決定)

EOX                            1 1 1 1 0 1 1 1 (F7H)

※ID No. は各メーカーごとに数値で決められており、ヤマハでは43Hというようになっています。たとえばF0Hのステータスに続いて43Hが来れば、ヤマハのMIDI機器からのデータだということになります。

※最大メモリー数は、MIDIデータ+時間データで59.9kバイトです。

### 2. 送信データ

受信データと同様。

表示文字一覧表

表 示	意 味
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9	0 ~ 9
0. 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9.	10 ~ 19
[	MIDI データの受信を完了しました。
E	ディスク R/W エラー (次ページの“エラーメッセージ一覧表”参照)
E.	MIDI 受信エラー (次ページの“エラーメッセージ一覧表”参照)
F.	ディスクフル (次ページの“エラーメッセージ一覧表”参照)
J	JOB モードです。
K.	OK? (実行しますか?)
L	ディスクからデータをロード (送中) 中です。
n.	ノーディスク (次ページの“エラーメッセージ一覧表”参照)
o.	バッファオーバーフロー (次ページの“エラーメッセージ一覧表”参照)
p.	メモリープロテクト (次ページの“エラーメッセージ一覧表”参照)
r.	MIDI データをレシーブ (受信) 中です。
s	MIDI データをセーブ (受信) 待ちです。
r	インターバルタイム (時間間隔) です。
u.	アンフォーマット (次ページの“エラーメッセージ一覧表”参照)
-.	ディスクからデータをリード (読み出し) 中、またはディスクヘライト (書き込み) 中です。



## エラーメッセージ一覧表

本機は、不適当な操作を行なおうとしたり異常が起きると、LEDディスプレイに、警告やエラーを意味する文字を表示することがあります。このようなときには、原因を確認したう

えで処置を施してください。また、ここでは故障と勘違いしやすいメッセージもあわせて記載します。

メッセージ	原因(または意味)	処 置
 ディスクR/Wエラー	ディスクからの読み出し、または書き込み中に異常が認められた。	何らかのキーを押して解除し、ディスクを替えるなどしてください。なお、ディスクを替えても起こるようでしたら、故障が考えられます。その場合、お買い上げ店、もしくは最寄りの弊社電音サービスセンターにご相談ください。
 MIDI受信エラー	MIDIデータの受信中に異常が認められた。	ケーブルが抜けていないか、接続を確かめてください。
 ディスクフル	記録中に、ディスクのメモリー容量を越えた。また、20ケめのファイルNo.にあたるデータを、記録しようとした。	何らかのキーを押して解除し、ディスクを替えるなどしてください。
 ノーディスク(ノーデータ)	ディスクが挿入されていない。 または、データの入っていないディスクでロードしようとした。	使用するディスクを挿入してください。 ロードの際は、データの入っているディスクで行なってください。
 バッファ オーバー フロー	受信中にバッファの容量を越えた。	自動的に内容が消されます。送信機器のデータ送出量を減らして、再度セーブしてください。
 メモリープロテクト	ディスクのツメが折れている。	ディスクに、セロテープなどを貼ってください。 (5ページ、“クイックディスクについて”の項参照)
 アンフォーマット	ディスクが初期化されていない。	使用するディスクを初期化してください。 (8ページ、“ディスクの初期化”の項参照)

Function ...	Transmitted	Recognized	Remarks
Basic Default	x	x	
Channel Changed	x	x	
Mode Default	x	x	
Mode Messages	x	x	
Mode Altered	*****		
Note Number : True voice	x	x	
Velocity Note ON	x	x	
Velocity Note OFF	x	x	
After Touch Key's	x	x	
After Touch Ch's	x	x	
Pitch Bender	x	x	
Control Change	x	x	
Prog Change : True #	x	x	
Prog Change : True #	*****		
System Exclusive	o	o	
System : Song Pos	x	x	
System : Song Sel	x	x	
Common : Tune	x	x	
System : Clock	x	x	
Real Time : Commands	x	x	
Aux : Local ON/OFF	x	x	
Aux : All Notes OFF	x	x	
Mes- : Active Sense	x	x	
sages : Reset	x	x	
Notes			

# サービスについて

本機の保証期間は、保証書によりご購入から1ケ年です。(現金、ローン、月賦などによる区別はございません。)また保証は日本国内にてのみ有効といたします。

## ●保証書

保証書をお受け取りのときは、お客さまのご住所、お名前、お買い上げ月日、販売店名などを必ずご確認ください。無記名の場合は無効になりますので、くれぐれもご注意ください。

## ●保証書は大切にしましょう！

保証書は弊社が、本機をご購入いただいたお客さまにご購入の日から向う1カ年間の無償サービスをお約束申しあげますが、万一紛失なさいますと保証期間中であっても実費を頂戴させていただくこととなります。万一の場合に備えて、いつでもご提示いただけますように充分ご配慮のうえで保管してください。また、保証期間が切れましてもお捨てにならないでください。後々のサービスに際しての機種判別や、サービス依頼店の確認など便利にご利用いただけます。

## ●保証期間中のサービス

保証期間中に万一故障が発生した場合、お買上げ店にご連絡頂きますと、技術者が修理・調整致します。この際必ず保証書をご提示ください。保証書なき場合にはサービス料金を頂戴く場合もあります。又お買上げ店より遠方に移転される場合は、事前にお買上げ店あるいは電音サービス拠点にご連絡ください。移転先におけるサービス担当店をご紹介申し上げますと同時に、引き続き保証期間中のサービスを責任をもって行なうよう手続き致します。

満1カ年の保証期間を過ぎますとサービスは有料となりますが、引き続き責任をもってサービスをさせていただきます。なお、補修用性能部品の保有期間は最低8年となっています。そのほかご不明の点などございましたら、下記のヤマハサービス網までお問い合わせください。

## ■YAMAHA電気音響製品サービス拠点

(お客様ご相談窓口・お預り修理窓口)

東京電音サービスセンター	〒211 川崎市中原区木月1184 TEL (044) 434-3100
新潟電音サービスステーション	〒950 新潟市万代1-4-8 (シルバーホールビル2F) TEL (0252) 43-4321
大阪電音サービスセンター	〒565 吹田市新芦屋下1-16 (千里丘センター内) TEL (06) 877-5262
四国電音サービスステーション	〒760 高松市丸亀町8-7 (日本楽器高松店内) TEL (0878) 51-7777, 22-3045
名古屋電音サービスセンター	〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2 (日本楽器名古屋流通センター) TEL (052) 652-2230
九州電音サービスセンター	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL (092) 472-2134
北海道電音サービスセンター	〒065 札幌市東区本町1条9丁目3番地 TEL (011) 781-3621
仙台電音サービスセンター	〒983 仙台市卸町5丁目-7 (卸商共同配送センター3F) TEL (0222) 36-0249
広島電音サービスセンター	〒731-01 広島市安佐南区紙屋町西原2-27-39 TEL (082) 874-3787
浜松電音サービスセンター	〒435 浜松市上西町911 TEL (0534) 65-6711

本社  
電音サービス部 〒435 浜松市上西町911  
TEL (0534) 65-1158

\*件所及び電話番号は変更になる場合があります。

## 日本楽器製造株式会社 LM事業本部

本社	〒430 浜松市中沢町10-1 TEL (0534) 60-2431
東京事業所	〒104 東京都中央区銀座7-11-3 矢島ビル TEL (03) 574-8592
大阪事業所	〒542 大阪市南区南船場3-12-9 心斎橋プラザビル東館 TEL (06) 252-5231
名古屋営業所	〒460 名古屋市中区錦1-18-28 TEL (052) 201-5145
九州営業所	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL (092) 472-2155
札幌営業所	〒064 札幌市中央区南十条西1丁目 ヤマハセンター TEL (011) 512-6113
仙台営業所	〒980 仙台市大町2-2-10 TEL (022) 22-6146
広島営業所	〒730 広島市中区紙屋町1-1-18 TEL (082) 244-3744

